

平成20年度 生活科部 研究活動のまとめ

南丹・船井小学校教育研究会

《研究主題》 「活動や体験を充実させ、気づきの質を高める授業をめざして」 ～科学的な見方・考え方の基礎を養うための学習活動の工夫～		
第一回	日時	平成20年 6月 4日 13:40～16:30
	会場	京丹波町立三ノ宮小学校
	研究の概要	<p>(1) 授業研究会 第2学年「げんきにそだて」</p> <p>(2) 講演 「平成18・19年度 府小研生活科研究協力校の実践を通して ～福知山市立細見小学校の取組より～」 京丹波町立竹野小学校 教諭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「知の創造」気づき、考え、表現しよう ～生き生きと表現し、主体的に学習する子どもを育成する生活科の創造～ ・具体的に育てたい力 ・研究を進める上で大切にしたい点など
第二回	日時	平成20年 7月23日 13:30～16:30
	会場	南丹市立吉富小学校
	研究の概要	<p>(1) 実践交流 ○実践発表「レッツゴー川辺探検」 南丹市立川辺小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の活動にふさわしい学習環境づくりと意欲を高めるための働きかけ ・気づきの質を高めるための活動の工夫および評価 <p>○実践に対する意見交流</p> <p>(2) 講演 「これからの生活科学習～気づきの質を高め、科学的な見方や考え方の基礎を培う学習指導～」 奈良女子大学附属小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気づきの質のとらえかた ・遊びの工夫からおもしろさや不思議さの気づき ・自然の気づきの質を高める指導
第三回	日時	平成19年11月26日 13:40～16:30
	会場	南丹市立殿田小学校
	研究の概要	<p>(1) 授業研究会 第1学年「あきとあそぼう」</p> <p>(2) 実技研修 「理科教育へつなぐ生活科における遊びの工夫」 京都府南丹教育局指導主事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科的な気づきや思考につながるあそびにつかうものづくり 「とんぼづくり」「紙とんぼづくり」他の教材作り

<p>本年度の研究で明らかになった内容</p>	<p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業研究会で明らかにできたこと <ul style="list-style-type: none"> ・主体的な活動にするための児童の思いを大切に学習計画及び安全に配慮した学習環境の設定を行う。 ・児童の気づきを交流し合い、練り合いや考える（試行錯誤する）場面を単元の中に位置づけ、気づきの質を高める。 ・伝え合い、交流する場の設定および繰り返し表現する活動を大切にする。 ・比べる活動、細かいところまで見る活動を通して、違いや類似に気付かせる。 ・人との出会い、自然との関わり、生命の大切さを学ぶと共に、ふるさとを愛する心を育てるなど道徳の時間の指導との関連を考慮する。 ○実践に学ぶ <ul style="list-style-type: none"> 実践発表『「知の創造」気づき、考え、表現しよう』 <ul style="list-style-type: none"> ・気づきの質を高めるためには、教師の確かな見とりが必要である。 ・子どもの主体性に基づいて教材を構成していくための教師の力量を高める。 ・生活科の体験と国語科とを関連させ、表現力、気づきを育てる。 ・地域の人々や環境を教材化すると共に、地域の力を最大限に活用する。 講演「これからの生活科学習」から <ul style="list-style-type: none"> ・指導要領の改訂で変更されたことの確認ができた。 ・生活科の中でもものを見る視点を作ることが理科教育につながる。 静的な見方 動的な見方 自覚された気づき（自分からの働きかけ） 時系列の見方（繰り返し関わり、変化を追う） ・科学的なものの見方を育てる。 どうすればどうなるのかの因果関係＝原理を共有 ・ふり返り、自分が納得したことをまとめる。 比較、分類、関連づけをし、変化を文章や新聞、グラフなどでまとめる活動 ・自然の気づきの質を高める指導を進める。 自然に働きかける状況づくり 学び方を工夫（気づきを伝える場の設定）→自尊感情の育成 友達のよさ発見 ○実技研修 <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に追加された部分「遊びに使う物を工夫してつくる活動」のねらいを含んだ教材の開発を進める。 <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の指導計画を立てる上で、ねらいを明確にして単元を設定し、地域の素材を教材化するために指導者の力量を高める。 ・評価計画を立て、指導と評価の一体化を図る。 ・生活科での気づきを国語科や他教科にどのように生かしていくか。
<p>来年度への研究課題</p>	<p>(1) 新学習指導要領での改訂点を踏まえ、児童一人一人の思いや多様性を大切にしながら、児童の気づきをより質の高いものにするために、どのような単元指導計画や具体的な手立てが考えられるか、さらに追究する。</p> <p>(2) 児童の関心・意欲・態度、思考や表現、気づき等の評価の在り方について研修し、より信頼性の高い評価を行うと共に、評価を指導に生かす。</p> <p>(3) 保幼小連携や他教科との関連を考慮した生活科の学習活動をどのように進めるか。</p>
<p>その他の研究活動</p>	<p>府小研生活科部会支部長会への参加 5月19日（月） 南丹市園部公民館</p> <p>府小研生活科部会支部長会への参加 11月25日（火） 口丹波勤労者福祉会館 ・平成22年度研究発表会に向けて</p>